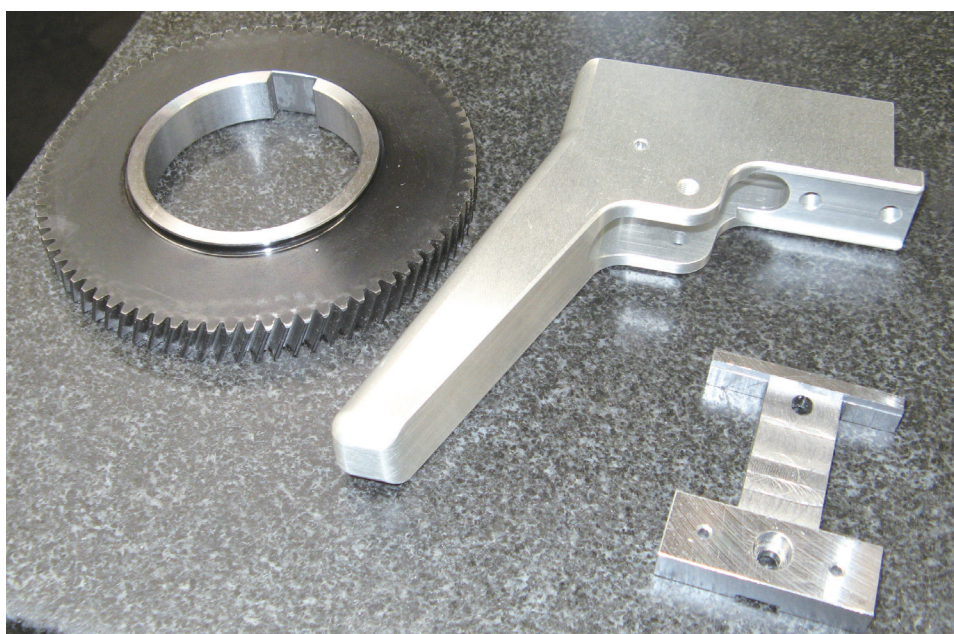


社内体制の充実で 着実に前進

納期
相談
コスト
相談
試作可
小ロット



加工した部品

業務
内容
設備機械の部品を
一品生産

設備機械などの部品加工全般を手掛けている。以前は大手弱電メーカー向けの部品加工が多かったが、現在は医療機器や製薬など幅広い業界の生産設備向け部品が大部分を占める。加工する部品は一品ごとに異なる。マシンニングセンターを同社仕様にカスタマイズして、一品生産を画面通りに高精度、短納期で行うことで顧客の信頼を獲得している。10社以上の同業者とのネットワークもあり、受注の内容に応じた外注した方が良い案件に関しては他社に依頼している。



高精度加工が可能なマシニングセンター

強み
小回り生かして、
短納期の要求に応える

古川日出男社長は、総勢5人という小所帯の同社が生き残る術を日々考えてきた。大手企業にはないものは何か、顧客企業から求められるものは何かを探し続け、同社の強みは規模の大きい会社と比べて小回りが利く点にあると導き出した。小ロットの部品加工を主とするだけに、発注元からは短納期を求められることも多い。そういった厳しい要求にも小回りが利く長所を生かして、機動的に対応することを心がけている。加工の高精度化、多種多様化、合理化を求められる中で、独自の品質保証体制の確立、コストダウンにも力を入れている。特に高度な技術を要するカム加工

を得意とし、他社ではあまり取り扱わない高度な技術をアピールしている。

人材
活用
経験不問
考え方を重視

従業員は入社後10年以上経過したベテランが2人と今年採用した1人。古川社長は同社で戦力になる人の条件として「当たり前のことを当たり前にできること」を挙げる。「自分の考えを形にすることができる人であれば、経験者にも何がしかの影響を与えることができる」と機械を扱った経験はまったく問わない。条件を満たす人の採用には苦労するが、自分自身でしっかりとした考えを持つ人であれば育てることができると確信している。入社後も各自が考えを持って行動しているかを評価基準とし、定期昇給ではなく、評価に応じて配分する方式を実行している。

今後の
展望
3カ年計画で
顧客・売上を拡大

3年周期で経営計画を策定している。リーマン・ショックによる受注激減を経て、現在は回復基調にあり、売上高を年5〜10%ずつ上げていく計画。既存顧客の注文にきめ細かく対応する体制を整えつつ、新規顧客開拓を進めている。社内体制の充実を注いだ結果、リーマン・ショック以前は外注が7割を占めていたが、内製が増え逆に7割を占めるようになった。平成26年に入れば従業員を1人採用するのに加え、経済産業省の「ものづくり補助金」を活用して新たな設備も導入する。着実に売上高を拡大しながら、その規模に応じた体制を整える。

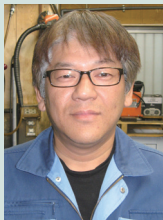
COMPANY PROFILE

有限会社古川製作所

大阪
25

当社の 歴史

昭和58年に門真市内で古川製作所として創業。昭和62年、有限会社古川製作所を設立しました。平成6年にマシニングセンターを導入。平成12年には2台目のマシニングセンター、平成13年に平面研削盤を導入するなど、加工設備の充実を図っています。



企業努力を惜みず、皆様のお役に立てる企業であり続けたいと思っています。

代表取締役 古川 日出男さん

■主な事業内容
設備機械部品製造全般

■主な取引先（納入先）
機械修理メーカー及び
産業機器・省力化機械
メーカー

住 所／〒571-0017
門真市四宮
4-5-39
TEL／072-882-7182
FAX／072-882-9005
創 業／昭和58年10月
設 立／昭和62年5月
資本金／300万円
従業員／5名

<http://www.furukawa-ss.com/>